

2016年度の事業報告書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

特定非営利活動法人フードバンク岩手

1 事業の成果

フードバンク事業

① 目的

- ・生活保護制度で対応できない、あるいは緊急的な対応を必要とされる生活困窮者へ食料品の現物支援を行うことで、現在の社会福祉制度で、不足している部分を補う。
- ・食品の提供を行うことで相談者と支援者との距離を縮め、相談業務をやりやすくする。
- ・上記に加え、子どものいる困窮のおそれのある家庭を早期に発見し、課題が複雑化する前に、関係機関と連携し支援する。
- ・フードドライブ(食料寄贈キャンペーン)などの実施により、市民や企業からの食品寄贈を広げ、積極的にフードバンクのボランティアを提案することで困窮者支援の地域協力者を掘り起こす。

② 実施内容

・生活困窮者自立支援法に基づく岩手県内の相談機関は23ヶ所。そのうち19団体に提供するに至った。その他14の相談機関や生活支援団体と東北のフードバンクの拠点2カ所にも提供した。

生活困窮者の相談窓口等より緊急支援の要請を受け食品を813件(1件に対し複数のケースを提供している場合も含む)約1200世帯(子ども支援プロジェクトは446世帯含む)の生活困窮者に提供した。欠品することはなかったものの、おかずの収集が引き続き課題である。

・役所や生活困窮者自立相談事業を担う社会福祉協議会や民生委員会や労働福祉協議会、各講演会や説明会など約20件へ出向き、フードバンクの説明やフードドライブへの協力要請を行った。

・フードドライブは公開型(常設しており食品を一般の方が持ってこられる所)14カ所と職場型(企業内や学校内の決められた人と場所内で食品を集める事)35カ所で取り組んでいただいた。3市町役場などでも取り組んで頂き、生活困窮者に対しての理解や認知度がより深まり、他市町村へのアピールへと繋がった。

・これらの活動をテレビ局や地元紙や地域情報誌に報じてもらうことで、ボランティア参加者数の増加や食料品寄付が量的に発展することができた。実施内訳は下記表の通り。

③ 実施期間 2016年4月～2017年3月末

④ 対象 生活困窮者 約1000世帯

寄贈 提供は下記の通り

	寄贈件数	寄贈数量	提供件数	提供数量
2016年4月	55	1,93.8	23	983.2
5月	30	647.5	28	442.8
6月	51	823.3	44	1,022.0

7月	59	750.9	122	2,212.0
8月	33	620.6	26	1,323.1
9月	54	1,175.5	38	1,061.1
10月	43	1,178.1	18	340.0
11月	77	2,416.5	31	613.1
12月	114	3,674.5	378	3,576.5
2017年1月	69	1,473.8	40	922.6
2月	43	1,526.0	22	693.6
3月	73	1,130.9	43	1,009.5
合計	706	17,351.4	813	14,199.5

※子ども支援プロジェクトの件数・重量含む

⑤連携団体

食料支援について

- ・相談窓口を展開している各市町村の自立支援相談窓口(19 団体)、カリタス釜石、共生地域創造財団大船渡事務所、AGAIN ふうどばんく東北、フードバンクあきた、千年苑、もりおか復興支援センターへ食料支援を行った。

- ・子ども食堂を展開しているもりおかユースポート(わっこの家)、インクルいわてへ食料を提供した

- ・児童養護施設である、みちのくみどり学園、青雲荘、自立援助ホームステップ、和光学園、大洋学園へ食料を提供した

- ・学習支援を展開している、もりおかユースポート、子どものエンパワメントいわてへ食料を提供した

- ・パノラマ福祉館、もりおかユースポートでは利用者に呼びかけボランティア作業に参加していただいた。就労支援の場を提供できた。

フードドライブについて

- ・フードバンクポストを設置し、通年を通してフードドライブを実施している箇所を増やす事ができた。公共施設では、盛岡市役所(地域福祉課)、ふれあいランド岩手、滝沢市社会福祉協議会、西部公民館

民間施設では、大船渡市市民活動支援センター、共生地域創造財団大船渡事務所、やはぱーく、岩手県公会堂、赤石公民館、紫波南さぷり、ちいさな野菜畑、イーハトーブの住人

- ・フードバンクポストの設置はないが通年を通してフードドライブを実施している箇所は、くらしのサポーターズ、くらしネットみやこ相談室、共生地域創造財団大船渡事務所、遠野市社会福祉協議会と増やすことができた。

- ・また期間限定ではあるがフードドライブを実施している箇所として、雫石町役場、雫石町内の各保育所や公民館、矢巾町役場、矢巾町社会福祉協議会などに協力いただいている

- ・職場型フードドライブ、紫波町立紫波第三中学校、各地域の民生委員会などでも協力いただいている。

⑥報告書発行について

- ・各連携機関や各市町村の社協、寄贈者へ生活困窮者に対しての食料支援の現況と理解を深め、また今年度の報告活動と広報活動として事業報告書を発行した。作成3000部

困窮者支援事業-子ども世帯支援プロジェクト

① 目的

- ・生活困窮のおそれのある子どもを擁する家庭を早期に発見し、課題が複雑化する前に支援に繋げる。

② 実施期間と内容

- ・夏休み、冬休みと2回にわたり実施。
- ・夏休みは盛岡市の準要保護世帯を対象とし、子ども支援プロジェクトの申請用紙を民生委員が221部、直接配布した。
- ・臨時でフードドライブのチラシを1000枚、作成し食品寄贈を市民等に呼びかけた。

夏休み

	申請書の配布方法	対象世帯	申請書 配布数	申請受 付・配布	食品発送重量
盛岡市	民生委員より手渡し	準要保護世帯	221世帯	89世帯	1000kg

冬休みは5市町で実施。

	申請書の配布方法	対象世帯	申請書 配布数	申請受 付・配布	食品発送重量
盛岡市	民生委員より手渡し	準要保護世帯	500世帯	163世帯	1435.7kg
遠野市	家庭相談員から手渡し、子ども課より発送	ひとり親世帯（無職・求職中）、要支援対象者	100世帯	48世帯	68.0kg
紫波町	子ども課を通じ発送	就学援助対象者	200世帯	82世帯	1109.4kg
矢巾町	教育委員会を通じ発送	就学援助対象者	190世帯	62世帯	849.2kg
陸前高田市	民生委員より手渡し	民生委員さん判断	90世帯	2世帯	29.36kg

- ・食品を各世帯に宅配する際は、実施市町村役場の各相談機関等の案内資料や、もりおかユースポート、子どものエンパワメントいわて、インクルいわてなど、各子ども支援や母子支援団体などの資料を同封した。
- ・子ども支援プロジェクトの実施後、対象となった方から相談機関へ繋がったケースがあり、目的としていた生活困窮のおそれのある子どもを擁する家庭を早期に発見し、課題が複雑化する前に支援に繋げることができた。
- ・学生はボランティア活動に参加することで、生活困窮についてより理解を深めることが

できたようだ。

③ 対象 5市町村の小中学生のいる準要保護世帯

④ 連携団体

・盛岡市(子ども未来課、地域福祉課)・盛岡市社会福祉協議会協議はプロジェクトを実施するにあたり、事前協議に参加、実施後はアウトリーチまたは申請者から相談があった場合など申請時に行ったアンケート情報をもとに支援に活用した。また申請者に対して食品を送る際に同封した相談先一覧に記載ある各相談窓口も相談先として協力していただいた。

・遠野市(子育て総合支援課)・遠野市社会福祉協議会、はプロジェクトを実施するにあたり、事前協議に参加、実施後はアウトリーチまたは申請者から相談があった場合など申請時に行ったアンケート情報をもとに支援に活用した。また申請者に対して食品を送る際に同封した相談先一覧に記載ある各相談窓口も相談先として協力していただいた。

・紫波町(こども課)・紫波町社会福祉協議会、岩手県社会福祉協議会はプロジェクトを実施するにあたり、事前協議に参加、実施後はアウトリーチまたは申請者から相談があった場合など申請時に行ったアンケート情報をもとに支援に活用した。また申請者に対して食品を送る際に同封した相談先一覧に記載ある各相談窓口も相談先として協力していただいた。

・矢巾町(こども課・教育委員会)・岩手県社会福祉協議会はプロジェクトを実施するにあたり、事前協議に参加、実施後はアウトリーチまたは申請者から相談があった場合など申請時に行ったアンケート情報をもとに支援に活用した。また申請者に対して食品を送る際に同封した相談先一覧に記載ある各相談窓口も相談先として協力いただいた。

・陸前高田市(子ども子育て課)・陸前高田市社会福祉協議会はプロジェクトを実施するにあたり、事前協議に参加、実施後はアウトリーチまたは申請者から相談があった場合など申請時に行ったアンケート情報をもとに支援に活用した。また申請者に対して食品を送る際に同封した相談先一覧に記載ある各相談窓口も相談先として協力していただいた。

社会参加促進事業

① 目的

- ・市民に、主体的な参加による困窮者支援の活動と学びの場を提供する。
- ・ひきこもりがちや孤立気味の方など多様な市民に、社会貢献・社会参加の場を提供する。
- ・参加者の自己有用感を醸成し、フードバンク事業の担い手、人手不足に直面する農を含めた事業の担い手を育成する。

② 実施内容

- ・フードドライブで集まった寄付食品などの賞味期限の確認や食品の状態のチェック、生活困窮者へお渡しする緊急支援要請時にお渡しする食料支援セットの作成などの作業のボランティア募集を下記の方法で実施した。
- ・岩手大学、盛岡大学へボランティア募集のポスター掲示の協力、HP・SNSでのボランティア募集の情報発信、地域情報誌「マ・シェリ」、盛岡タウン情報誌「アキュート」へボランティア募集記事掲載、その他フードドライブと合わせて各広報誌へのボランティア募集掲載、子どものエンパワメント岩手主催の学生ボランティア説明会(4名)

に参加しボランティア募集の呼びかけ。

- ・その結果ボランティア登録は約 100 名
- ・常時活動ボランティアは 60 歳以上の男性や主婦が多く、長期休み中には大学生によるボランティア活動が行われた。子ども支援プロジェクトなどでは大学生ボランティアが主に 2 日間で約 50 名参加し、主に箱詰めを行ってもらい、学生自ら考案した方法などで作業をしてもらい、より活動に理解が深いものになった。

また春休み中には高校生約 10 名が、フードバンクの看板作成や緊急支援の食料品支援セットの作成作業などをし、学生ボランティア参加のさらなる拡がりにつながった。

③ 実施期間

2016 年 5 月～2017 年 3 月

④ 対象者

市民(生活困窮者、引きこもり、障がい者など含む)約 60 名

社会参加促進事業-支援員スキルアップ事業

① 目的

- ・新たな担い手とともに困窮者のエンパワメントについて学ぶ。
- ・行政を含めた団体との連携について学ぶ。
- ・地域の社会資源を理解し、相談されたときに、適正な繋ぎができるようにする。

② 実施内容

- ・2017 年 2 月 16 日「フードバンクと生活困窮者」～食料支援を用いた生活困窮者支援について～を開催
 - ・「フードバンクと生活困窮者」講師 静岡県 POPOLO 事務局長鈴木和樹さん
 - ・「食料支援を用いた困窮者支援」NPO 法人いわて生活者サポートセンター盛岡くらしの相談支援室 室長 山口 貴伸
 - ・「多機関の協働による包括支援体制構築モデル事業と今後について」盛岡市社会福祉協議会 地域福祉課 主事 畠山里和子
- ・ボランティア、民間支援団体、民生委員などから 60 名参加
- ・2017 年 2 月 17 日～18 日 フードバンク実務交流 指導 静岡県 POPOLO 事務局長鈴木和樹さん：対象者 スタッフとボランティア
 - ・スタッフ 4 名参加
 - ・問合せがあった場合の対応方法、食品の管理方法、食品に不具合があったときの場合の対応、ボランティアさんの活動方法を指導頂いた

③ 実施期間

2017 年 2 月 16 日～2 月 18 日

④ 対象者 食糧支援を実施している県内の生活困窮者自立支援事業の支援員、フードバンクボランティア、民生委員、行政担当者など

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
フードバンク事業	市民や生産者に食品の提供をお願いし、また賞味期限内でまだ食べられるのに印字ミスや箱の破損などで販売できない食品を企業に募集。いただいた食料を生活困窮者や児童・障がい者施設、生活困窮者自立支援相談事業所などに無償で提供する事業	常時	盛岡市など	3名	33団体 約800世帯	11,679
困窮者支援事業	子どもを持つ世帯の困窮者を新たに発見し支援につなげる事業	夏冬休み	盛岡市など	2名	446世帯	435
就労継続、就労移行支援事業	実施なし					
社会参加推進事業	寄付された食品の仕分けや、フードドライブなどをきっかけに困窮者支援に市民の参加を促進する事業	週4日程度	当事務所	1名	約60名	1,074
その他の付帯する事業	実施なし					0

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
実施なし					